



行 所 館
西 部 民 人 司
町 公 衆 郡 所
北 川 郡 所
北 洋 印 刷 株 式 会 社
(巻 町 電 話 204 番)

新らしい町造りに総力

合併までには赤字解消へ

——いよいよ来春一月一日を期して新発足すべく巻町を中心とした六ヶ町村合併促進協議会では新しい町造りについて連日会議が開かれていくようだが、合併についての理想とするところはやはりお互い素裸の合併が望ましいと思う。巻町を中心とした合併が遅々として進まなかつた原因にこの町の赤字財政が挙げられるとも聞きま

す。又先月の本紙で取あげた「はがき回答」の結果はやはり合併以前にこれが解消又はこれに開連されたものが強く指摘されていたようでありませう。この町の財政面でも苦境に追い込まれた主な原因についてお伺いしたい。一御承知の様に終戦を契機として自治体の在り方が各自自治体の責任に於て行政がなされるようになった事とこれ

年 度	納 税 率
昭和二二年	九六%
二三年	八九%
二四年	八九%
二五年	七六%
二六年	七四%
二七年	七四%
二八年	八一%

このような納税率となつておりました。昭和二十二年より年度別決算比較であります。

結局はその年度に於ける才出に對し才入の面の不足(滞納)によつて生じたものだと思つていますが、この町の滞納はどのようになつていますか、
「そうですね、昭和二十二年以降であります。昭和二二年の納税率は九六%、二三年は八九%、二四年は八九%、二五年は七六%、二六年は七四%、二七年は七四%、二八年は八一%、このように納税率が低下してきておりました。昭和二十二年より年度別決算比較であります。」

「結局赤字となつて一、二五〇万円の滞納を除いては、勿論町発展を希つて行なわれたものでありませうが、やはり町村合併に先きだつて町として何んとか対策を講じなければと思つて、これについてどの様にお考えですか」
「合併を契機としてと、言うだけではないに一般財源の供給量増加の手段である税収入の確保、滞納整理の促進強化による赤字をなくしたいと思つております。又人件費の支出を抑制したい。人件費については給与改訂がなくとも定期的昇給等にもより増加の傾向にあるので配置転換事務の再配分等により欠員不補充を原則としたい。物件費についても事務の合理化、能率化を図りこれを補いたい。補助金、負担金、寄附金等はその対象となつた事業内容を再検討して支出する。補助事業、単独事業等の投資的経費に對する一均化するための事業計画確立等によらねばならぬと考えています。」

「私共のこの町の発展はやがては私共が幸福になると言うことだと思つております。私共は協力的見解から町政に協力し自らの幸福を克ち得たいものだと思つております。いろいろお忙しい処ありますがどうかご意向にあるので配置転換

一般、会計赤字発生状況調 (単位千円)

	昭和26年度		昭和27年度		比較		昭和28年度		比較	
	才出総額 A	一般財源 B	才出総額 C	一般財源 D	C-A	D-B	才出総額 E	一般財源 F	F-C	F-D
消費	25.439	22.382	26.642	22.967	1.203	585	35.481	30.117	8.839	7.150
投資	1.806	943	2.734	1,645	928	702	12.449	7,690	9,715	6,045
	1.170	307	1,492	503	322	196	10,030	519	93	16
公債	636	636	742	642	106	6	10,864	7,171	10,122	6,529
	934	934	500	500	500	500	1,566	1,566	△ 500	△ 500
上	5,448	5,448	1,193	1,193	259	259	2,918	2,918	△ 1,788	△ 1,788
	33,627	29,707	35,269	30,505	△ 748	△ 748	52,414	43,061	△ 17,145	△ 12,555
税		21,422		23,067		1,645		25,881		2,814
		3,585		4,520		935		4,895		376
その他		4,700		2,918		△ 1,782		12,285		9,367

その豪壯闊達な山岳美、湖沼美、溪谷美等は何れも旅行者の目を眩らせ心を躍らせるに充分だつたが、筆者が別の意味で特に心を打たれたのはこれだけの素晴

巻町児童から

巻町を離れてもう六ヶ月になりました。暑い／＼と言った夏も合風十五号と共に過ぎて、昨今は冷雨の降る中秋となりました。相変わらず仕事に追われていますが、古志の僻地から御地のことを思い出すこと厭々です。

夜になつて、虫の声を聞くと一種郷愁の想いが致します。扱てここ古志の山地に來て、文化の恩恵をしみ／＼と感じました。そして文化生活に恵まれた人達に文化愛好の精神を持ち続けてもらいたい気持ちで一杯です。

町のネオンや舗装道路はいかに及ばず広い平地に聳然と並ぶ稲の切株、一つ一つに至るまで、ここでは見られない文化の象徴です。しかもそれ等はすべて社会の個々の人々に呼びかけていると共に、協同的な又発展的な社会の土台となりつつ相互に凭れ合つてゐるのであるにやうか。私は今あまり自然のままのむしろ自然に居られたいままの僻地に來てこんなことを感じています。私が御地に在りし當時を偲びつつ文化の恩恵に感謝しながら次の方々に望んだら無理だろうか。

一、酒がいらぬ政治

ついに太陽をとらえた

原爆、水爆、放射能とその被害は日本全土に及んでいる。果して原子力は人を幸福にするだろうか。本書は、読売新聞社社会部長辻本芳雄を中心に社会部員の人達の取材をもとに辻本氏が直接に筆を取り、東大助教授理学博士の中村誠太郎の校閲によるものである。本書は原子力の全般にわたるわかりや



読書室

すく説明してある。原子力とは何か又どのようにして発見されたのか。苦悶されたか。世界を理学的にめぐる各国の動きを数々の面白いエピソードをはさんで割合にたやすく書いてある。我々は原子力を知らなければならぬ。広島、長崎の原爆でもビキニの水爆でも我々には無知識が無知識の無知識に突然被害を受けた。そのために被害は大きくなった。保山さんは死ななすにいたかも知れない。

手に出来る人間になつてもらいたいものです。(古志郡西谷村立中学校長)

「抜書・聞書・覚え書」

「鳥原水門」

一、三瀧懸水抜一件(其の二)

恐れ乍ら口上書を以て願ひ上げ奉り候御事(鳥原水門相止め候願書の扣)

一、延享四卯年新堀割御書請取り付け候則、信濃川前後メ切、雪代雨水にて相破れ、村上藩、新発田藩御領の村々水入りと相成り候

節……私共三十七ヶ村御吟味の上、向後新堀割水門相破れ候か、又は堀筋左右の堤破損仕り右四ヶ村水入り相成り候はば、御年貢夫食等の儀は勿論、流家、潰家、農具、諸道具まで損失の分相償い候様仰せ付けられ、此段難渋至極と存じ奉り候へ

宝曆六酉年(一七五六)

御領地越後国蒲原郡御封印野新田堀割引請、巻村外三十六村割元庄屋

長岡御領地御役所

享保から何度「御封印野開登願人」があつたことか、その度江戸まで反対陳情に行つたり、また吟味の為呼び出されたりで、とうとう、延享三年(一七四六)に他願人に委せず鑑編組三十七ヶ村で開発すること。(そのために排水路を作ること、その排水路も命にかけても湊の水一滴失うまいとする新濁湊の運動のせいもあるのか、大野の傍の鳥原に作ることに成り、翌年工事開始、工事中に雪代水のために逆流し流してしまつた。驚

曼珠沙華

石田節之助

山裾のなだりや沢辺田のほとり曼珠沙華みだれ燃えさかる村曼珠沙華妖しくにほひ咲きつづく杉原なかの小篠生の徑み鑑にもかも似ふりさく曼珠沙華海への里の秋の彼岸は現世を恋ふて咲くかや秋あきに炎えて彩る奥津城とくろ篠生地に夕陽かれば朱あかといよよ朱さゆ群曼珠沙華

(野積村にて)

疎開児童から

巻町の皆様へ

戦時中、私共が御地に学童集団疎開をしてから早十年、この度私達有志の謝恩訪問旅行に際し大なる歓迎を戴き感謝に堪えません。近い将来に再び、この意義ある催を現に移す所存でございます。その節には何分よろしくお願ひ致します。重ねて御歓迎を厚く深謝申し上げます。近隣の方々にもよろしくお伝え下さい。豊作を祈ります

深川小学校同窓生 疎開児童の会
謝恩訪問旅行団 豊谷貞夫



新生卷町の発足に際して

卷町長 河 治 忠

去る一月一日を期して旧卷、降岡、浦浜、松野尾、角田、漆山の六ヶ町村が合併して人口二万九千、面積七一・七一平方キロの新生卷町が誕生しました、この意義ある新生卷町の出発と前途を祝して十九日から三日間記念祝賀祭が各種団体の協賛をいって挙行されることになりました、わが町の絶対生産量は米でありいわゆる穀倉西蒲の心臓部であり、また物資補給の役目をはたすため工業、さらに地下資源として豊富な天然ガス開発によつて工場誘致をはかるなどすれば町の将来は期して待つべきものがありまして、わが新生卷町の前途は洋々たるものがありこの農商工の町を町民の協力によつて盛り上げてゆきましよう。



卷の文字を図案化した文化の発展と飛躍の姿を象徴する

新作

卷音頭

作詞 小柳みつ
作曲 杵屋休三郎
振付 藤間伸子

一、ハア

角田のほれば 越後はひと目
おらが巻町あ

おらが巻町あ なおひと目
ソレ 巻はよいとこ シャシャンとシャンと
手拍子をろえて 一おどり ソレ一おどり

二、ハア

おらが巻町あ 東も西も
北も南も
北も南も 米の山(以下はやし略)

三、ハア

西瓜番だと 夜通し起きて
お前松野尾
お前松野尾 知りやせまい(以下はやし略)

四、ハア

渡り鳥かよ 毒消娘
盆が来るぞえ
盆が来るぞえ はよ戻れ(以下はやし略)

五、ハア

雪につつ立つ 角田の山は
越の男の

越の男の 心意気(以下はやし略)

六、ハア

越の女と 峰岡餅餅子
味も品よく

味も品よく しな／＼と(以下はやし略)

七、ハア

恋のリユックを 二人でかつぎ
行くは浦浜

行くは浦浜 ハイキング(以下はやし略)

八、ハア

漆山でも 積出す米は
色の白さも

色の白さも 日本一(以下はやし略)

九、ハア

音頭とる娘の 中腰姿
腰のまろみか

腰のまろみか 気にかかる(以下はやし略)

卷小唄

作詞 小柳みつ
作曲 杵屋休三郎
振付 藤間伸子

一、巻はよいとこ(サツテモ サテモ)

米の越後の
西の要の一の町
海は白金 稲な穂に黄金
山は翡翠の(エーサツテモ)角田山

二、あやの塚には(サツテモ サテモ)

さんさ五月雨
どこか餅子の香も匂う
逢わなかつたか 旅路のつぼめ
毒消し売る娘に(エーサツテモ)売る声に

三、来るか来るかと(サツテモ サテモ)

お前松野尾
心矢川に 飛落川
畦に出てみりや 星さえ消えて
恋の闇夜の(エーサツテモ)漆山

四、行こよハイクに(サツテモ サテモ)

巻の浦浜
觀光ユース 二人組
そよぐ汐風 真澄の彼方
雲も角田の(エーサツテモ)峰に湧く

卷町合併祝賀記念行事一覽表

期 日	行 事	開始時刻	会場(集合場)及行進経路	備 考
三月十七日	新潟日報巡回映画 卷多賀良神社遷宮祭 新潟日報演芸団披露 前夜祭 新潟日報演芸団披露 ラジオ新潟 卷町音頭、小唄公開録音 新潟日報巡回映画	午後七時 午前九時 午後一時 午後七時 午後七時	卷町立角田分校 卷 神 社 卷町立浦浜小学校 卷 中 学 校 卷町立松野尾小学校	新潟日報協賛による町外宣伝
三月十八日	全町児童による旗行列 卷町合併祝賀式典 (音頭小唄発表) 青年団弁論大会 青年団婦人会演芸大会 卷町物産展示会 新潟日報演芸団披露 新潟日報巡回映画 農機具展示会及実演会 山車コンクール	午前十時 午前十時 午前十時 午前十時 午前九時 午後十二時三十分 午後二時 午後七時 午前九時	卷、漆山、峰岡、角田、松野尾、浦浜の各地区 卷 小 学 校 県立巻農業高等学校 卷 中 学 校 卷 小 学 校 漆山 小 学 校 竹野町 小 学 校 浦 浜 小 学 校 卷 中 学 校 グ ラ ン ド 旧 卷 町 巡 回	
三月十九日	近郷籠球選手権大会 西蒲原郡武道大会 県下蜀鶏品評会 県下蜀鶏大会 西蒲原郡菓子祭 卷町物産展示会 卷音頭、小唄発表会 新潟日報演芸団披露 新潟日報巡回映画 広告山車コンクール 農機具展示会実演会 ビール、銘酒飲分け舌自慢大会	午前九時 午前九時 午前九時 午前九時 午前九時 午後十二時三十分 午後三時 午後三時 午後四時三十分 午後二時 午前九時 午前九時 午後一時	卷 中 学 校 県立巻農業高校 卷 小 学 校 第 一 松野尾 小 学 校 越 前 小 学 校 漆 山 小 学 校 松野尾 小 学 校 四ノ郷 小 学 校 越 前 小 学 校 竹野町 小 学 校 卷小学校集会(旧村部区) 卷中学校グラウンド 卷小学校々庭(又は卷神社境内)	〔兼芸妓総出演〕 〔卷婦人会おどりの会〕 賞金 一等 一点 一〇、〇〇〇円 二等 一点 五、〇〇〇円 三等 一点 一、〇〇〇円 佳賞 若干点 参加賞
三月二十日	県下蜀鶏品評会 西蒲原郡菓子祭 卷町物産展示会 近郷卓球大会 記念講演会 卷音頭、小唄発表会 新潟日報巡回映画 県下商工大会 駅伝競走 農機具展示会、実演会 児童演芸 卷町歌う会、みんなの会 新潟日報巡回映画	午前九時 午前九時 午前九時 午前九時 午前九時 午後十二時三十分 午後二時 午後七時 午後七時 午後七時 午後七時	卷 小 学 校 (第一) 前日に同じ 卷 小 学 校 (第二) 県立巻高等学校(南校舎) 浦 浜 小 学 校 峰 岡 中 学 校 卷 中 学 校 稲 島 分 校 漆 山 小 学 校 卷小学校図書館 漆山―松野尾―角田―峰岡―卷 卷中学校グラウンド 峰 岡 中 学 校 卷 中 学 校 漆 山 小 学 校 卷 中 学 校 入徳館 小 学 校	〔兼芸妓総出演〕 〔卷婦人会おどりの会〕 計 二、三、二〇〇メートル
三月二十一日	新潟日報巡回映画 県下商工大会 駅伝競走 農機具展示会、実演会 児童演芸 卷町歌う会、みんなの会 新潟日報巡回映画	午後七時 午後七時 午後七時 午後七時 午後七時 午後七時	卷 中 学 校 漆 山 小 学 校 卷 中 学 校 入徳館 小 学 校	
三月二十二日	新潟日報巡回映画	午後七時	入徳館 小 学 校	

【注】会場、時間等は都合で一部変更する場合があります。